

製品名: XBP1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21507**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:29kD;Observed MW:35kD,60kD

抗原情報

遺伝子名	XBP1
別名	XBP1;TREB5;XBP2;X-box-binding protein 1;XBP-1;Tax-responsive element-binding protein 5
遺伝子 ID	7494.0
SwissProt ID	P17861
免疫原	ヒト XBP1 の組み換えタンパク質

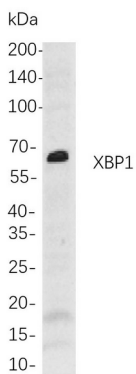
背景

細胞局在: 核。この遺伝子は、Xボックスと呼ばれるプロモーター領域に結合して MHC クラス II 遺伝子を制御する転写因子をコードする。この遺伝子産物は bZIP タンパク質であり、T細胞白血病ウイルス 1 型プロモーターのエンハンサーに結合する細胞転写因子と

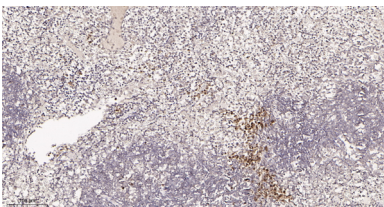
しても同定されている。ウイルス転写活性化因子の DNA 結合パートナーとして作用することで、ウイルスタンパク質の発現を増強する可能性がある。小胞体 (ER) に折り置かれていないタンパク質が蓄積すると、この遺伝子の mRNA は、エンドヌクレアーゼであるイノシトール要求酵素 1 (IRE1) を介した特殊なスプライシング機構によって活性型へと処理されることが明らかになっている。スプライスされた mRNA から 26 塩基が失われることでフレームシフトが起こり、機能的に活性な転写因子であるアイソフォーム XBP1(S)が生成される。スプライスされていない mRNA によってコードされるアイソフォーム XBP1(U)は、恒常的に e である。

研究分野

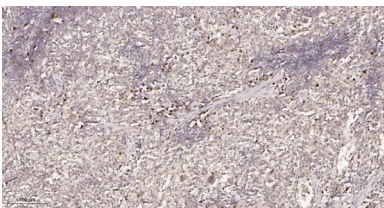
画像データ



XBP1 ウサギ mAb を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学分析。1、XBP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学分析。1、XBP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。